

近代を御すてになつて……？

唐木 死にぎわで老眼鏡かけて……(笑)

野田 唐木さんはロマンチストだよ。(笑)

唐木 リアリストだよ。今、現実というようなことを貴方(高田氏)が言つていたが、現実とは何かということを考えるとき、与えられた現実が現実だという前提に立つている。現実はそのまんじやない。ロマンチストと言われたが、決して非現実じやない。夢じやないんだ。

栗山 結論は、切つても切つても古典は残つていふことになりそうだ。

唐木 おもしろくなつたから、もう少しやろう。

野田 こういふ問題は、やはりくりかえしていると思うんだ。明治四十三年、上田敏が京都大学の学生に特別講演をやつていふでしよう。「現代の芸術」というのがある。今日とよく似ている。「我々はとにかく過去を切り捨てなければならぬ」と上田敏は強調している。しかし何んにも目標はない。明治末年の青年にはない。ただ模索している。上田敏はあらゆる芸術を説きながら、過去から脱皮する時代を熱烈に学生に強調している。戦後の今まで生きておれば、あれと逆のことを言つているんじゃないか。つまり、捨てるものは終つた。捨てる時期は過ぎた。今度はより良きものをハッキリ捉えておけ、という問題だ。戦後の問題ですよ。

栗山 じゃ、この辺で……。(速記・竜岡博)

「青鞥」細目 補遺 (高田)

第二巻第十二号 大正元年十二月一日発行

わが影(\*短歌) 三ヶ島 霞 一六

東北風(\*小説) ブヂシチェフ 瀬沼夏葉訳 七一 一五

近代人の告白(つづき) アルフレッド・ド・ミュッセエ 野上弥生子訳 一六一 二二

髪(長篇) 杉本 正生 二三一 三八

麻酔剤(\*小説) 小林 歌津 三九一 四六

お染久松(\*短歌) 原田 琴 四七一 五一

メルストロエム(\*前号のポオの小説のつづき) らいてう訳 五二一 六九

コルシカの旅(\*小説) モオパッサン 榊 櫻訳 七〇一 八五

靄の帯(小品) あきら 八六一 八九

青鞥社詠草(\*短歌。白雨、岩淵百合、山田澄子、青井禎子、児島てるを、きよ) 藤岡 一枝 九〇一 九四

初恋(\*小説) 日記より 牧野 静 一一一 一一六

さよなら(\*小品) 皐 月 一一七 一二三

編輯室より 一二四 一二六

寄贈書籍紹介 一二七 一二七

寄贈雑誌 一二七 一二七

新年号予告 一二七 一二七

広告(\*色別紙、青鞥叢書八東雲堂、  
「朱樂」、  
「スバル」、  
「ヒウザン」第二号、  
「モザイク」、  
「心の花」、  
「白樺」など)

雑誌規定、奥附